授業科目	英語Ⅳ（総合） English Ⅳ	担当教員	松尾　文子
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業目的	1. 英語の 4 技能を含む総合的な語学能力の向上を目指す。 2. 英語のプレゼンテーションを通じて、英語の運用能力の向上を目指す。		
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握できる。 2. 専門領域の文献を読むことができる。 3. 自分の考えをまとめて英語で口頭発表できるようにする。		
テキスト	Stay Healthy　Paul Stapleton（センゲージラーニング　2016）		
参考書	授業中に指示する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	学んだことの理解度を測る定期試験 70%、Unit ごとの Pre-reading activity の提出物 20%、授業の取り組み姿勢 10%で評価する。 定期試験を未受験の場合は、評価の対象としない。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20%	
	その他	10%	

履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。また，テキスト（授業中に配布する資料）で取り上げるトピックに関して、自らの視点で考える。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス / Chapter 1: Healthy Japan
		授業内容	本科目の学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点等を説明する。 / 本テキストが編まれた背景を考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	2	学習の主題	Chapter 1: Healthy Japan
		授業内容	本テキストが編まれた背景を考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	3	学習の主題	Chapter 2: Health and Evolutionary Psychology
		授業内容	我々の体が環境と相互作用しながら発達してきたことを考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	4	学習の主題	Chapter 2: Health and Evolutionary Psychology
		授業内容	我々の体が環境と相互作用しながら発達してきたことを考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	5	学習の主題	Chapter 4: Race and Health
		授業内容	我々の体が環境と相互作用しながら発達してきたことを理解することが、病気の治療や予防に役立つことを考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	6	学習の主題	Chapter 4: Race and Health
		授業内容	我々の体が環境と相互作用しながら発達してきたことを理解することが、病気の治療や予防に役立つことを考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7	学習の主題	Chapter 7: The World's Most Common Disease
		授業内容	健康や医療分野の最新の知見の一端に触れる。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	8	学習の主題	Chapter 7: The World's Most Common Disease
		授業内容	健康や医療分野の最新の知見の一端に触れる。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	9	学習の主題	Chapter 8: Instant Noodles
		授業内容	即席麺が健康に及ぼす影響を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	10	学習の主題	Chapter 8: Instant Noodles
		授業内容	即席麺が健康に及ぼす影響を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	11	学習の主題	Chapter 9: Supplements
		授業内容	サプリメントが健康に及ぼす影響を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	12	学習の主題	Chapter 9: Supplements
		授業内容	サプリメントが健康に及ぼす影響を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	13	学習の主題	Chapter 15: The New Nutrition
		授業内容	栄養に関する新たな発見が長寿につながる可能性があることを学ぶ。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	14	学習の主題	Chapter 15: The New Nutrition
		授業内容	栄養に関する新たな発見が長寿につながる可能性があることを学ぶ。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	15	学習の主題	これまでの授業の振り返り
		授業内容	これまで学んだ内容の確認
		事前・事後学習	事前：これまでの授業内容を復習する。 事後：期末試験の勉強をする。

授業科目	文学と人間 Literature and Humanity	担当教員	畠山　瑞樹
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	文学に触れたとき、その展開や登場人物に様々な感情を抱くのは、異なる世界を知り得るからです。作品を作り出した作者の価値観、登場人物に投影された多様な生き方・考え方に触れることは、他を受容し自己の感性を高め、豊かな人間性を育むことに繋がります。 この講義では、日本の伝統的な文学や文化を通して、現代にも通じる人間・社会・時代の様々な構成要素について考察します。古典文学は「古文」ではなく「作品」です。多くの魅力的な文学作品の読解を通じ、体系的に基礎的な知識や教養を身に付けるとともに、自ら考え表現する力の基礎を培うことを目的とします。		
到達目標	1. 日本の文学や伝統文化についての、基礎的な知識・教養を身に付けることができる。 2. 文学・文化と人間との関わりについて、自ら考え表現することができる。		
テキスト	なし（プリント配布）		
参考書	講義時適宜紹介する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		最終レポート 50%＋各回提出小レポート 50%。最終レポート未提出の場合は評価対象としない。各回提出小レポートは、①講義内容の整理と確認②自らの考察の表現化③出席確認のため、随時実施する。 評価の観点は到達目標に示した 2 点。講義内容を理解し、日本の文学や伝統文化に関する知識をどれだけ身に付けることができているか、それらを基に自らの考察を深め意見を表現できているかを評価する。
	レポート	50%	
	小テスト		
	提出物	50%	
	その他		

履修上の留意事項	1．古典文学作品を多く読むことになるため留意すること。 2．進度により、講義で扱う作品および扱う回を入れ替える場合がある。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	講義概要・評価方法についての説明　古典文学読解の基本
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。
	2	学習の主題	古典文学読解①　上代の文学作品を読む
		授業内容	生と死・結婚と離婚・穢れについて考える（『古事記』）
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。
	3	学習の主題	古典文学読解②　中古の文学作品を読む Ⅰ
		授業内容	小さ子・いじめについて考える（『竹取物語』『落窪物語』）
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。
	4	学習の主題	古典文学読解③　中古・中世の文学作品を読む
		授業内容	疫病・災害について考える（『大鏡』『方丈記』）
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。
	5	学習の主題	古典文学読解④　中古の文学作品を読む Ⅱ
		授業内容	男と女・個性について考える（『堤中納言物語』『とりかへばや』）
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。
	6	学習の主題	日本人と昔話 Ⅰ
		授業内容	享受について考える（「浦島太郎」「桃太郎」ほか）
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。
	7	学習の主題	古典文学読解⑤　中世・近世の文学作品を読む
		授業内容	宗教・娯楽について考える（説話・御伽草子・黄表紙）
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	8	学習の主題	日本人と昔話Ⅱ
		授業内容	日本について考える（牽牛織女伝説・義経伝説）
		事前・事後学習	小レポートで講義内容を整理し理解を深める。

授業科目	国際社会論 International Sociology	担当教員	翁　康健
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	世界の地理や文化を理解するとともに、急変していく世界の情勢や社会、経済の中での国際的視野の拡大を図ることを目的とする。具体的には主権国家の意味について考え、異文化間、民族間、文明間の社会問題を理解し、国家間のマネジメント・コミュニケーションと交渉力の重要性について考える。また、グローバリゼーションの進展のなかで、人々の生活に与える影響や保健医療の問題などについて国際的な視点で考え、国際活動と共存のあり方について学習する。		
到達目標	国際的な時事問題を理解できる社会人を目指す。		
テキスト	適宜指示をする。また、時事問題に関しては、視聴覚教材を利用する予定。		
参考書	なし		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況をレポート（50%）、提出物（30%）、その他（20%）で評価する。 その他には、授業内での発表が含まれる。
	レポート	50%	
	小テスト		
	提出物	30%	
	その他	20%	

履修上の留意事項	・講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、学生証の提示や講義室からの退出を命じる可能性がある。 ・講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	世界の地理を知る　①
		授業内容	いくつかの方法で世界を分類する
		事前・事後学習	アジアの国々を調べる
	2	学習の主題	世界の地理を知る　②
		授業内容	日本は世界の中でどのような立場にあるのかを理解する
		事前・事後学習	多くの種類の世界地図を調べる
	3	学習の主題	世界の宗教を知る
		授業内容	世界の三大宗教について理解する
		事前・事後学習	宗教について新聞記事を調べる
	4	学習の主題	人の流れをめぐる問い：移民問題を考える　①
		授業内容	自由化か　規制か：移民問題を考える
		事前・事後学習	移民について新聞記事を調べる
	5	学習の主題	人の流れをめぐる問い：移民問題を考える　②
		授業内容	格差をめぐる問い：競争か　格差か
		事前・事後学習	格差について新聞記事を調べる
	6	学習の主題	統治をめぐる問い　①
		授業内容	多文化か　ナショナルか
		事前・事後学習	統治について新聞記事を調べる
	7	学習の主題	統治をめぐる問い　②
		授業内容	グローバリゼーションの功罪を考える
		事前・事後学習	グローバリゼーションについて新聞記事を調べる
	8	学習の主題	まとめ
		授業内容	国際人とは何か？　について自分の考えを持つ
		事前・事後学習	これまでの授業の復習

授業科目	保健医療福祉行政論Ⅱ Health ＆ Welfare Administration Ⅱ	担当教員	近藤　明代、安藤　陽子、小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	1. 保健医療福祉行政の仕組みと行政施策における財政について学ぶ。 2. 主要な地域保健活動の実際と地域保健活動の進め方について学ぶ。 3. 保健医療福祉計画の考え方と策定の基本について学ぶ。 4. 保健医療福祉行政における保健師の役割、栄養士の役割を学ぶ。 5. 地域保健医療福祉計画策定について学ぶとともに、地域の健康問題解決に必要な社会資源の開発や保健・医療・福祉サービスの仕組みの理解の必要性について学ぶ。		
到達目標	1. 地域保健活動の基盤である行政・関係法規・財政の仕組みと機能について理解する。 2. 主要な地域保健活動の実際を知ることによって、地域保健活動の具体的な進め方を理解する。 3. 保健医療福祉行政と地域保健医療福祉計画の策定における保健師や栄養士の役割について理解する。		
テキスト	1. 藤内修二「標準保健師講座　別巻 1　保健医療福祉行政論」（医学書院） 2. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2020/2021」（厚生労働統計協会） 3. 医療情報科学研究所「公衆衛生がみえる 2020-2021」（メディックメディア）		
参考書	1. 「衛生行政大要」（日本公衆衛生協会） 2. 編集・野村陽子「最新 保健学講座 7　保健医療福祉行政論」（メヂカルフレンド社） ※その他、必要に応じプリント配付		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	保健医療福祉行政の仕組み、財政、主要な地域保健活動とそれらの計画策定の基本に関する内容の定期試験（筆記試験）を実施し、目標の達成度を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	保健医療福祉行政の仕組みや関係法規等の概要については 3 年次に履修済であるが、本授業では更に深く学習するので、事前学習として「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習に努めて授業に臨むこと。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、実際の活動例を紹介しながら、理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（近藤）	学習の主題	保健医療福祉行政の概要
		授業内容	1. 厚生行政と保健医療福祉行政　2. 保健医療福祉行政の仕組み 3. 地方自治と地方分権　4. 個人情報と個人情報保護
		事前・事後学習	事前学習：1 と 2 については「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習に努め、さらに 3 と 4 については該当箇所を読み疑問点を明らかにする。
	2（近藤）	学習の主題	保健医療福祉行政の財政
		授業内容	1. 国と地方公共団体の財政の仕組み ・財政の意義と機能　・国家財政　・地方財政 2. 予算の機能と原則 ・財政民主主義　・国の予算の手続き　・地方公共団体の予算の手続き
		事前・事後学習	事前学習：財政は行政施策にとって関係法規を同じく基盤となる要素だが、難しい部分も多いので、事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにする。
	3（近藤）	学習の主題	健康の概念と公衆衛生の概念
		授業内容	1. 健康の概念 ・健康の概念の変遷　・現在の健康観 2. ＷＨＯ（世界保健機関）の健康に対する考え方 ・ＷＨＯの健康に対する考え方　・ＷＨＯ憲章と日本国憲法 3. 公衆衛生の概念
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読み疑問点を明らかにする。
	4（近藤）	学習の主題	世界と日本の公衆衛生活動の歴史
		授業内容	1. 世界の公衆衛生活動の歴史　2. 日本の公衆衛生活動の歴史
		事前・事後学習	事後学習：公衆衛生活動の歴史的発展における欧米諸国と日本の相違点を整理し理解する。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 （小川）	学習の主題	地域における主要な保健活動①
		授業内容	1.地方分権と地域保健法 ・地域保健法の制定　・地域保健法の体系 ・地域保健対策の推進に関する基本的な指針 2.国民健康づくり対策 ・第一・第二・第三次（健康日本 21）・第四次対策（健康日本 21(第２次)）
		事前・事後学習	事前学習：「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学んだ内容を復習する。
	6 （近藤）	学習の主題	地域における主要な保健活動②
		授業内容	3. 母子保健対策
		事前・事後学習	事後学習：母子保健対策の変遷と保健所・市町村における事業内容を関係法規と共に整理する。
	7 （小川）	学習の主題	地域における主要な保健活動③
		授業内容	4. 成人・高齢者保健対策
		事前・事後学習	事後学習：成人・高齢者保健対策の変遷とともに、保健対策の関係法規についても整理する。
	8 （安藤）	学習の主題	地域における主要な保健活動④
		授業内容	5. 障害者（児）保健対策
		事前・事後学習	事後学習：精神保健対策、難病対策の変遷と、実際の活動を関係法規と関連づけて復習する。
	9 （安藤）	学習の主題	地域における保健活動⑤
		授業内容	6. 感染症対策
		事前・事後学習	事前学習：「保健医療福祉行政論Ⅰ」で学習した「感染症対策のポイント」を復習する。
	10 （安藤）	学習の主題	地域における主要な保健活動⑥
		授業内容	7. 結核対策
		事前・事後学習	事前学習：結核対策の歴史的変遷と結核の現状と対策の実際について整理しておく。予防接種についても「保健医療福祉行政論Ⅰ」の復習をする。
	11 （近藤）	学習の主題	地域における保健活動①
		授業内容	市町村における主要な保健活動
		事前・事後学習	事後学習：地域における保健活動の授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする。
	12 （近藤）	学習の主題	地域における保健活動②
		授業内容	保健所における主要な保健活動
		事前・事後学習	事後学習：地域における保健活動の授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする。
	13 （小川）	学習の主題	地域保健医療福祉計画①
		授業内容	1. 地方自治体の保健医療福祉計画① ・地方自治体と計画行政 ・地方自治体の保健医療福祉に関する分野別計画
		事前・事後学習	事後学習：地方自治体の行政計画と保健医療福祉計画との関係や課題の理解に努める。
	14 （小川）	学習の主題	地域保健医療福祉計画②
		授業内容	2. 地方自治体の計画策定
		事前・事後学習	事後学習：地域保健医療福祉計画の策定、推進・管理・評価の進め方について復習して理解するとともに、厚生労働省健康局長通知「地域における保健師の保健活動について」(平成 25 年 4 月 25 日健発 0419 第 1 号) を読み、計画策 定と実施等における保健師の役割について整理し理解する。
	15 （近藤）	学習の主題	地域保健活動の展開
		授業内容	1. 地域保健活動の進め方
		事前・事後学習	事後学習：地域保健活動の基本と保健師・栄養士の役割について各自のノートに整理する。

授業科目	保健統計学 II Health Statistics II	担当教員	志渡　晃一、米田　龍大
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業目的	統計を用いた調査の意義と方法について学習し，地域の健康状態の分析・課題発見に向けた実践力を身に着ける。		
到達目標	① 健康や疾病にかかわる統計の目的と使い方の理解を深める. ② 統計を用いた調査・研究の基礎を身に着け，広い視点から説明できるようになる。		
テキスト	1. 浅野嘉延「看護学生のための疫学・保健統計学」（南山堂）2018 2. 講義資料を配布する		
参考書	1. 福富和夫，橋本修二「保健統計・疫学」（南山堂）2018		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	目標の到達状況を定期試験で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	定期試験を受験しなかった場合，評価の対象としません。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（志渡）	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	講義目的，内容の概説
		事前・事後学習	
	2（志渡）	学習の主題	保健統計①
		授業内容	人口統計・指標の振り返り
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	3（志渡）	学習の主題	保健統計②
		授業内容	保健統計・指標の振り返り
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	4（志渡）	学習の主題	調査法概論①
		授業内容	研究事例を通じて調査の基礎を学ぶ①
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	5（米田龍大）	学習の主題	調査法概論②
		授業内容	精神保健研究事例を通じて調査の基礎を学ぶ②。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	6（米田龍大）	学習の主題	調査法概論③
		授業内容	統計調査と事例調査，調査の倫理
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	7（米田龍大）	学習の主題	各論①
		授業内容	標本抽出の方法，データの種類と尺度
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	8（米田龍大）	学習の主題	各論②
		授業内容	調査票の作成，実査の方法
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	9（米田龍大）	学習の主題	演習①
		授業内容	調査の計画，調査票の作成の実践
		事前・事後学習	講義内容を復習する。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	10 （米田龍大）	学習の主題	演習②
		授業内容	調査の計画，調査票の作成の実践
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	11 （未定）	学習の主題	統計解析①
		授業内容	量的統計における調査技術①（単純集計，要約統計量など）
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	12 （未定）	学習の主題	統計解析②
		授業内容	量的統計における調査技術②（クロス集計，相関など）
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	13 （未定）	学習の主題	統計解析③
		授業内容	量的統計における調査技術③（$\chi 2$ 検定，t 検定など）
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	14 （未定）	学習の主題	統計解析④
		授業内容	量的調査における調査技術④（多変量ロジスティック解析，多重比較など）
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	15 （未定）	学習の主題	まとめ
		授業内容	講義内容の総括
		事前・事後学習	講義内容を復習する。

授業科目	精神看護活動論Ⅱ Psychiatric Nursing Ⅱ	担当教員	原田　由香
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	精神の病いや問題を抱える対象者への看護援助方法を学ぶ。さらに、自己のコミュニケーション能力を培い、これまでの学習内容を精神看護実習で活用できるよう準備する。		
到達目標	1. 精神看護領域における看護過程の概要について理解できる。 2. 紙上事例をもとに看護過程（アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、評価）を展開できる。 3. ロールプレイを通して、精神看護領域における対象者の理解を深めると共にコミュニケーション能力を培う。 4. 精神の健康課題を抱える人の体験談を聞くことにより、精神障がいをもつ人の理解を深める。		
テキスト	萱間真美、野田文隆編集「看護学テキスト NiCE　精神看護学Ⅰ　精神保健・多職種のつながり　こころ・からだ・かかわりのプラクティス」（南江堂）2015 萱間真美、野田文隆編集「看護学テキスト NiCE　精神看護学Ⅱ　臨床で活かすケア　こころ・からだ・かかわりのプラクティス」（南江堂）2015		
参考書	田中美恵子編「精神看護学―学生 - 患者のストーリーで綴る実習展開　第 2 版」（医歯薬出版）2015 ＊随時紹介予定		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		到達目標の達成状況について、下記の内容から評価し、60 点以上を合格とする。 小テスト：講義時間内において授業内容に関するテスト（30%） 提 出 物：看護過程の展開に関する課題（30%） ロールプレイ、体験談に関する 2 回のワークシート（20%） そ の 他：発表、取り組み姿勢（20%）
	レポート		
	小テスト	30%	
	提出物	30%	
	その他	40%	

履修上の留意事項	看護過程の展開は復習を行い、必ず個人ワークを行った上でグループワークに取り組むこと。さらに、発表などで気づいたことは青のボールペンで追加や修正を行うこと。
実務経験を活かした教育内容	臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神障がいをもつ人への看護援助方法について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス（目的、目標、評価価）精神看護実践とは 事例を用いての看護過程の展開：①アセスメントのまとめ
		授業内容	・精神看護実践の目的について理解する。 ・精神領域において重要となる情報やアセスメントについて理解する。
		事前・事後学習	・春休みの課題 （基礎情報アセスメント・関連図・問題リスト・看護計画提出） ・事前にシラバスを読んでおく
	2	学習の主題	事例を用いての看護過程の展開：②関連図・問題リスト作成 ＜ＧＷ：２教室＞
		授業内容	・グループごとに関連図、問題リスト作成に向けて GW を行う。
		事前・事後学習	・事前学習：事例に関する情報の整理、アセスメントについて見返す。 ・事後学習：グループごとに関連図、問題リストを作成する。
	3	学習の主題	事例を用いての看護過程の展開：③関連図・問題リスト ＜発表：２教室＞
		授業内容	・作成した関連図・問題リストについてグループごとに発表する。 ・関連図、問題リストのまとめ
		事前・事後学習	・事前学習：グループごとに関連図、問題リストを提出する。 ・事後学習：グループごとに事例の看護計画を立案する。
	4	学習の主題	事例を用いての看護過程の展開：④看護計画　＜発表：２教室＞
		授業内容	・グループごとに作成した看護計画で代表的なものを発表し、共有する。 ・看護計画のまとめ
		事前・事後学習	・事前学習：グループごとに作成した事例の看護計画を提出する。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5	学習の主題	事例を用いての看護過程の展開：⑤評価
		授業内容	・個人で記載した SOAP についてグループ間で話し合う。 ・SOAP の書き方に関するまとめ ・看護過程に関する小テスト
		事前・事後学習	・事前学習：個人ワークとして SOAP を記載する。 ・事後学習：追加修正（青）する。
	6	学習の主題	ロールプレイ　＜２教室＞
		授業内容	・グループメンバーでロールプレイを実施する。
		事前・事後学習	・事後学習：ロールプレイに関する学びについて整理する。
	7	学習の主題	ロールプレイ　＜２教室＞
		授業内容	・グループメンバーでロールプレイを実施する。 ・ロールプレイに関する意見交換（GW）
		事前・事後学習	・事後学習：ロールプレイに関する学びについて整理する。
	8	学習の主題	精神障がいのある人についての理解を深める。
		授業内容	ゲストスピーカーの精神障がいをもつ人から体験談を聞き、意見交換する
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読んでおく。 事後学習：資料に目を通し復習する。

授業科目	精神看護実習 Psychiatric Nursing : Practicum	担当教員	原田　由香
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2 単位
ねらい	心を病む人とのかかわりを通し、対象者について生活の観点から理解を深め、必要な看護活動および精神医療チームにおける多職種との協働について学ぶ。		
実習目標	1. 受持ち患者とのかかわりを通して、精神保健上の健康課題により日常生活や、対人関係に困難を抱えている人について理解を深める。 2. 受持ち患者の発達段階や健康状態・生活の状況をアセスメントし、精神の健康が生活におよぼす影響について理解する。 3. 受け持ち患者とのコミュニケーションの振り返りを通して得られた気づきを援助技術として活用し患者 - 看護師関係について学ぶ。 4. 受け持ち患者を生活者の視点から患者を取り巻く環境や多職種チームによる協働の意義を学ぶ。		
実習内容	具体的な内容については実習要項にそって実習オリエンテーションにおいて説明する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	実習評価表に基づき、実習施設での実習内容、実習態度、実習記録をもとに総合的に評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	これまでの学習を生かし、真摯な姿勢で積極的に取り組むこと。
実務経験を活かした教育内容	
実習方法	1. 入院生活をおくる患者を 1 名受け持ち、患者理解を試み、必要な看護活動を展開する。 2. 病棟でのミニカンファレンス（毎日）、第 1 週目および第 2 週目の学内カンファレンス（各 1 回）において、実習で生じた疑問や問題点について検討したり、グループ間で実習での学びを共有する。 3. 1 グループ学生 2〜4 名を各病院に配置して実習する。
実習施設	岡本病院、旭山病院、さっぽろ香雪病院、五稜会病院、大谷地病院

授業科目	看護課題研究 Nursing Research	担当教員	木津　由美子、他
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業目的	自己の看護への興味や疑問から自らの課題を設定し解決するために、これまで学習してきた情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力などの汎用的技能と看護学研究法で学んだ基礎的知識をもとに適切な手法を選択して計画的かつ系統的に探究することで、創造的思考力を養う。また、研究計画書を作成し、討議や発表を通して論理的表現や批判力の向上を図るとともに研究の基礎的知識・技術・態度を養う。		
到達目標	1. 自己の探求課題を明確にする。 2. 自己の課題に関連する先行文献を検索し、整理することができる。 3. 文献を要約し、批判的に講読することができる。 4. テーマを探求するための計画書を作成することができる。 5. 研究に係る倫理的配慮のもとに、計画書を実施することができる。 6. 研究計画書を発表することができる。 7. 研究の基本的知識・技術・態度を身につける。		
テキスト	なし		
参考書	研究の基礎的な方法については、看護学研究法のテキスト・参考文献に同じ。 課題に関連した文献は、担当教員の指導・助言をもとに各自で検索し活用する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		評価については、ガイダンス時に評価表を提示し説明する。 ・研究計画書（60%） ・発表資料（10%） ・研究計画書作成に対する姿勢（15%） ・発表（15%） 以上の評価基準に基づき評価し、60 点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他	100%	

履修上の留意事項	グループで 1 年を通して研究計画書の作成を学習します。チームワークを発揮して取り組みましょう。
実務経験を活かした教育内容	各担当教員は、実務経験者の立場から専門分野の特徴を踏まえて、学生が看護課題を探求できるように演習を展開します。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（全担当教員）	学習の主題	本科目の目的・目標・学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項などを説明。
		授業内容	ガイダンス後、グループに分かれ各担当教員のもと年間スケージュールを立案する。
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問を明らかにしておく。看護学研究法最終講義時に提出した研究テーマ希望について内容を確認し、ガイダンスに臨む。
	2〜5（全担当教員）	学習の主題	研究課題の設定①
		授業内容	担当教員のもとで、研究課題を設定する。 ・グループ・ディスカッション ・研究課題に関する文献検索 ・研究課題の設定
		事前・事後学習	初回は各自、研究課題に関する考えを明確にしてグループワークに臨む。 研究課題に関する文献検索については、担当教員の指導のもと行う。
	6〜10（全担当教員）	学習の主題	文献検索と整理②
		授業内容	担当教員のもとで、研究課題に関する文献検索、購読し課題を明確化する。 ・研究課題に関連した文献を収集する。 ・収集した文献を系統的に整理する。 ・整理した文献を購読、要約し、研究課題を明確化する。
		事前・事後学習	ゼミ前後の学習課題は、担当教員の指示に従い行う。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	11～15 (全担当教員)	学習の主題	文献レビュー③
		授業内容	収集、整理した文献について批判的検討を行う。 ・研究課題に関連した適切な論文を選択する。 ・選択文献を精読し文献カードを作成する。 ・文献の分類、分析、統合により研究課題を概観する。
		事前・事後学習	ゼミ前後の学習課題は、担当教員の指示に従い行う。 文献を批判的に検討し、研究課題に関連した研究背景を概観し、それらをグループ間で共有する。
	16～23 (全担当教員)	学習の主題	研究計画書④
		授業内容	研究課題を明らかにするための研究計画書を作成する ・研究課題が明確である。 ・研究動機が明確である。 ・研究目的に即した文献検索・検討から研究背景が適切に述べられている。 ・研究の意義が看護の視点から述べられている。 ・研究目的を明らかにするための研究方法を選択している。 ・研究目的を明らかにするための対象選択である。 ・研究目的を明らかにするためのデータ収集方法である。 ・倫理的配慮が述べられている。 ・役割分担が適切である。 ・参考・引用文献の記載が適確である。 上記の内容を網羅させた研究計画書の作成に取り組む。
		事前・事後学習	ゼミ前後の学習課題は、担当教員の指示に従い行う。
	24～26 (全担当教員)	学習の主題	発表準備⑤
		授業内容	研究計画書発表準備を行う。 ・発表抄録を作成要領に基づいて作成する。 ・発表内容に即したパワーポイント資料を作成する。 ・発表オリエンテーションに参加する。 ・発表者、司会進行係、参加者の役割責任を理解する。 ・メンバー間で役割分担を決め発表準備をする。
		事前・事後学習	事前に発表抄録作成要領をグループ間で理解し、共有しておくこと。
	27～30 (全担当教員)	学習の主題	発表オリエンテーションと発表⑥
		授業内容	発表に対して役割分担の責任を理解し、主体的に参加する。 ・タイムスケジュールに沿って発表を行う。 ・発表者、司会進行係、参加者の役割を担い、学びを共有する。
		事前・事後学習	事前にグループ間で発表練習を行い発表会に臨むこと。

授業科目	リハビリテーション看護論 Rehabilitation Nursing	担当教員	小野　善昭、佐藤　由佳子、村井　昌子、大橋　和貴
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	リハビリテーションの概念について学び、リハビリテーション看護の基礎的知識・技術・態度について学習する。ここでは、リハビリテーションを必要としている人および家族への看護と保健医療福祉チームとの連携・協働と看護の役割について理解する。また、在宅でリハビリテーションを受けている人々へのケアや健康増進のために健康教育に必要な知識・技術を習得する。		
到達目標	1. リハビリテーションの意味を理解する 2. リハビリテーションにおける看護の役割について理解する 3. リハビリテーションにおける法律と倫理的諸問題について理解する 4. リハビリテーションを必要としている人の特徴を理解する 5. リハビリテーションの目的とリハビリテーションに関わる職種の役割について理解し、チーム医療における看護職の役割を理解する 6. リハビリテーションを必要としている人とその家族への看護援助について理解する 7. 在宅でリハビリテーションをしている人とその家族に対する必要な援助について理解する		
テキスト	酒井郁子/金城利雄 編集「リハビリテーション看護　改訂第 3 版」（南江堂）		
参考書	中西純子/石川ふみよ 編集「リハビリテーション看護論　第 3 版」（ヌーヴェルヒロカワ） 武田宜子/下村晃子 他「系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　第 6 版」（医学書院） 奥宮暁子他 編集「ナーシンググラフィカ成人看護学⑤　リハビリテーション看護」（メディカ出版） 落合芙美子 監修「新体系看護学全書　別巻　リハビリテーション看護　第 2 版」（メヂカルフレンド社）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	到達目標に照らし、筆記試験と提出物で総合的に評価する。講義中に授業内容に応じた障がいをもつ人の生活に関するレポートなど 2 つの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	レポート	40%	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	事前、事後学習を確実に行って講義に参加してください。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、リハビリテーション看護の実践について理解しやすいように授業を行います。特に佐藤先生からは病院でのリハビリテーション看護、村井先生からは在宅でのリハビリテーション看護について実践を踏まえて授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（小野）	学習の主題	リハビリテーションの意味と看護の役割
		授業内容	1. ガイダンス 2. リハビリテーションとは 3. 国際生活機能分類（ICF）の考え方 4. リハビリテーション医療システムと看護の役割
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを熟読し、目標と内容について確認する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	2（小野）	学習の主題	リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論
		授業内容	1. QOL 2. 自立と自律 3. 動機と主体性 4. 社会的不利
		事前・事後学習	事前学習：必要な概念と理論について、テキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 （小野）	学習の主題	1. リハビリテーションにおける法律と倫理的諸問題 2. 生活機能障害のある人とその家族の理解①
		授業内容	1-1 リハビリテーションに関する法律や障害者を支える制度 1-2 看護実践に関連する道徳的概念とリハビリテーション看護 1-3 リハビリテーション看護における倫理的葛藤 2-1 身体的・心理的特徴 2-2 生活上の特徴 2-3 家族の特徴
		事前・事後学習	事前学習：必要な概念や制度などについて、テキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する。指示された課題をレポートにまとめ、提出する
	4 （小野）	学習の主題	生活機能障害のある人とその家族の理解②
		授業内容	障がいのある人の生活を理解するためのフィールドワーク
		事前・事後学習	事前学習：事前に提示された課題に取り組む 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	5 （大橋）	学習の主題	回復過程とリハビリテーション看護
		授業内容	1. 急性、回復期、生活期の各ステージにおける対象者の特徴 2. 各ステージにおけるリハビリテーションの目的と看護援助のポイント 3. フレイルとサルコペニア ※生活期に関しては 13 回目で詳細を講義
		事前・事後学習	事前学習：必要な概念と理論について、テキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	6 （大橋）	学習の主題	呼吸機能障害のある人へのリハビリテーション看護
		授業内容	1. 呼吸機能障害のある対象者のリハビリテーションの目的 2. 呼吸リハビリテーションの実際 3. 呼吸リハビリテーションを受けている対象者への看護の実際
		事前・事後学習	事前学習：呼吸器疾患および看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	7 （小野）	学習の主題	循環機能障害のある人へのリハビリテーション看護
		授業内容	1. 循環機能障害のある人へのリハビリテーションの目的 2. 心臓リハビリテーションの実際 3. 心臓リハビリテーションを受けている対象者への看護の実際
		事前・事後学習	事前学習：循環器疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	8 （佐藤）	学習の主題	摂食嚥下障害のある人へのリハビリテーション看護
		授業内容	1. 摂食嚥下のメカニズムとその障害 2. 嚥下障害のアセスメント 3. 嚥下障害のある対象者へのリハビリテーション看護
		事前・事後学習	事前学習：摂食嚥下障害及びその看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	9 （佐藤）	学習の主題	高次脳機能障害・言語機能障害のある人へのリハビリテーション看護
		授業内容	1. 高次脳機能障害とリハビリテーション 2. 言語機能障害とリハビリテーション
		事前・事後学習	事前学習：各機能障害及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	10 （佐藤）	学習の主題	脳神経疾患のある人へのリハビリテーション看護
		授業内容	1. 脳神経疾患のある人へのリハビリテーションの目的 2. 脳神経疾患のある人へのリハビリテーション看護 3. 脳神経疾患でリハビリテーションを受けている人への看護の実際
		事前・事後学習	事前学習：脳神経疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	11 （佐藤）	学習の主題	運動機能障害のある人へのリハビリテーション看護１
		授業内容	1. 運動器疾患のある人へのリハビリテーションの目的 2. 運動器疾患のある人へのリハビリテーション看護
		事前・事後学習	事前学習：運動器疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	12 （佐藤）	学習の主題	1. 運動機能障害のある人へのリハビリテーション看護２ 2. 障害を有する子どもへのリハビリテーション看護
		授業内容	1-1 運動器疾患でリハビリテーションを受けている人への看護の実際 2-1 障害を有する子どもとリハビリテーション 2-2 障害を有する子どもへのリハビリテーション看護の実際
		事前・事後学習	事前学習：前回学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	13 （村井）	学習の主題	在宅リハビリテーションを行っている人へのリハビリテーション看護１
		授業内容	在宅リハビリテーションを行っている人とその家族に対する必要な援助 1. 生活期リハビリテーションが行われる場とその特徴 2. 在宅でのリハビリテーションの実際 3. 地域リハビリテーション
		事前・事後学習	事前学習：在宅看護論で学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	14 （村井）	学習の主題	在宅リハビリテーションを行っている人へのリハビリテーション看護２
		授業内容	在宅でリハビリテーションを行っている人とその家族に対する必要な援助
		事前・事後学習	事前学習：在宅看護論で学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	15 （小野）	学習の主題	リハビリテーション医療・看護の課題・まとめ
		授業内容	1. 障がいのある人の医療、教育や生活の格差 2. ロボット工学とリハビリテーション 3. 災害とリハビリテーション 4. まとめ
		事前・事後学習	事前学習：これまでの講義資料を確認する 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する

授業科目	がん看護論 Oncology Nursing	担当教員	小島　悦子、大串　祐美子、渡辺　一代
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	がん看護の実践の基盤となる知識・技術を理解するとともに、がん医療における多職種連携の重要性と看護師の役割を理解する。		
到達目標	1. がんの疫学をもとに、各がんの特徴について概説できる。 2. がんサバイバーの全人的苦痛について説明できる。 3. がんサバイバーの全人的苦痛に対する支援について説明できる。 4. がん医療の中で生じる倫理的な課題を理解し、その対応について意見を述べることができる。 5. がん医療におけるチームアプローチの重要性と看護の役割について説明できる。		
テキスト	小松浩子 他「系統看護学講座別巻 がん看護学」（医学書院）		
参考書	1．車谷典男 他「疫学・保健統計 看護師・保健師・管理栄養士を目指す」（建帛社） 2．矢ヶ崎香「サバイバーを支える看護師が行うがんリハビリテーションがん看護実践ガイド」（医学書院） 3．近藤まゆみ「臨床・がんサバイバーシップ“ 生きぬく力 “を高めるかかわり Series. 看護のエスプリ」（仲村書林） 4．近藤まゆみ・梅田恵み 編「がん看護の日常にある倫理」（医学書院） 5．西川光則 他「本人の意思を尊重する意思決定支援 事例で学ぶアドバンス・ケア・プランニング」（南山堂） 6．総合的な思春期・若年成人（AYA）世代のがん対策のあり方に関する研究班 編「AYA 世代がんサポートガイド医療従事者が知っておきたい Support guide for adolescents and young adults with cancer」（金原出版） 7．平田秀紀 他「すぐに役立つがん放射線治療看護入門」（金原出版） 8．国立がん研究センター看護部 他編「国立がん研究センターに学ぶがん薬物療法スキルアップ」（南江堂） 9．小迫富美恵 他「がん体験者との対話から始まる就労支援看護師とがん相談支援センターの事例から」（日本看護協会出版会）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		講義中・後に、授業で理解したこと、授業内容に関連した意見・考え、感想を所定の用紙にまとめた提出物から、記述内容の具体性、到達目標の達成度、授業態度を合わせて評価する（100%）。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100%	
	その他		

履修上の留意事項	質の高いがん看護の実践について一緒に考えていきましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護について理解できるように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（小島）	学習の主題	ガイダンス がんの疫学
		授業内容	1．がんの罹患率、死亡率、生存率
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	2（小島）	学習の主題	がんサバイバーの理解（1）
		授業内容	1．がんサバイバーシップの考え方 2．がんサバイバーシップの歩むプロセス 3．がんサバイバーの全人的苦痛
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	3（小島）	学習の主題	がんサバイバーの理解（2）
		授業内容	1．がんのもつ社会的影響 2．がん医療に伴う経済的問題 3．がんサバイバーの就労
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 （小島）	学習の主題	がんサバイバーの支援（1）
		授業内容	１．意思決定支援 ２．がん医療の中で生じる倫理的課題 ３．多職種によるチームアプローチ
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	5 （小島）	学習の主題	がんサバイバーの支援（2）
		授業内容	1. 日本におけるがん対策 2. 早期からの緩和ケア 3. サポートグループ、セルフヘルプグループ / ピアサポート
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	6 （小島）	学習の主題	がんサバイバーの支援（3）
		授業内容	1. 全人的苦痛のアセスメント
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	7 （小島）	学習の主題	がんサバイバーの支援（4）
		授業内容	1. 全人的苦痛を緩和するケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	8 （小島）	学習の主題	がんサバイバーの支援（5）
		授業内容	1. がん手術療法の特性 2. 手術療法ががん患者の心身に及ぼす影響とケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	9 （小島）	学習の主題	がんサバイバーの支援（6）
		授業内容	1. がん薬物療法と使用される薬剤の特性 2. 薬物療法に伴う有害事象とそれに対するケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	10 （小島）	学習の主題	がんサバイバーの支援（7）
		授業内容	1. がん放射線療法と使用される放射線の特性 2. 放射線療法に伴う有害事象とそれに対するケア
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	11,12 （大串）	学習の主題	化学療法認定看護師の活動
		授業内容	1. 化学療法認定看護師の役割 2. 化学療法認定看護師の行う看護の実際
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	13,14 （渡辺）	学習の主題	がん看護専門看護師の活動
		授業内容	1. がん看護専門看護師の役割 2. がん看護専門看護師の行う看護の実際
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習
	15 （小島）	学習の主題	がん看護のまとめ
		授業内容	1. 質の高いがん看護を提供するために看護師としてできることを考える
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習・復習

授業科目	クリティカル看護論 Critical Nursing	担当教員	小野　善昭、春名　純平、村中　沙織
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	生命の危機状態（重篤・急変状態）にある患者・家族への看護の基本的な知識・技術を理解するために、患者・家族の特徴や倫理的問題の基本概念を理解し、クリティカルな状態にある患者・家族への看護援助について理解する。また、クリティカルな場における看護師の果たす役割について理解するとともにクリティカルケアの専門性について考察する。		
到達目標	1. クリティカルケアに関する基本概念について理解できる 2. クリティカルな状態にある患者の病態とその特徴を理解できる 3. クリティカルな状態にある患者・家族への看護援助について理解できる 4. 呼吸管理、循環管理、代謝管理が必要な患者への看護について理解できる 5. 代表的な疾患に特徴的な看護について理解できる		
テキスト	明石惠子,益田美津美他「新体系看護学全書　経過別成人看護学　1 急性期看護：クリティカルケア」（メヂカルフレンド社）		
参考書	道又元裕他「系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学」（医学書院） 佐藤まゆみ,林直子他「成人看護学 急性期看護 II 救急看護・クリティカルケア（改訂第 3 版）」（南江堂） 池松裕子「クリティカルケア看護 I - 患者理解と基本的看護技術」（メヂカルフレンド社） 池松裕子「クリティカルケア看護 II - アセスメントと看護ケア」（メヂカルフレンド社） 池松裕子他「クリティカルケア看護論」（ヌーヴェルヒロカワ） 山勢善江「救急・クリティカルケアにおける看取り（Nursing Mook 49)」（学研） 山勢博彰他「救急・重症患者と家族のための心のケア - 看護師による精神的援助の理論と実践」（メディカ出版） 黒田裕子他「クリティカルケア看護　完全ガイド」（医歯薬出版）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	目標達成状況を定期試験（60%）、レポート（40%）により総合的に評価する。 講義中に授業内容に応じた危機的状況にある事例に関するレポートなど 2 つの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	レポート	40%	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	本科目に関係するこれまでの学習について復習し、事前学習を行って授業に参加してください。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、クリティカル看護の実践について理解しやすいように授業を行います。特に春名先生、村中先生からは CNS としての活動も踏まえて授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（小野）	学習の主題	ガイダンス、基本概念
		授業内容	1. ガイダンス 2. クリティカルケアの定義 3. クリティカルケア看護の対象と特徴
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	2（小野）	学習の主題	クリティカルケア看護師に求められる能力
		授業内容	1. 予測力と判断力 2. 知識・技術 3. 役割
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する
	3（小野）	学習の主題	患者・家族の心理面の安定を図るための援助
		授業内容	1. 危機理論 2. ストレスコーピング 3. 家族看護
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 (小野)	学習の主題	侵襲に伴う生体反応
		授業内容	1. 生体反応の推移 2. 神経・内分泌系反応 3. サイトカインの作用様式 4. 全身性炎症反応症候群（SIRS） 5. 代謝性抗炎症反応症候群（CARS）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	5 (春名)	学習の主題	呼吸不全患者への看護
		授業内容	1. 呼吸不全と人工呼吸器装着の適応 2. 人工呼吸の主な換気様式 3. 全身への影響・合併症 4. 観察とケア
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	6 (春名)	学習の主題	鎮痛・鎮静、せん妄予防とケア
		授業内容	1. 痛みの評価とマネジメント 2. 鎮静の評価とマネジメント 3. せん妄の評価とマネジメント 4. せん妄患者および家族へのケア
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	7 (春名)	学習の主題	循環不全患者への看護
		授業内容	1. 循環状態の安定を図るための援助 2. PCPS：経皮的心肺補助装置 3. IABP：大動脈バルーンパンピング
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	8 (春名)	学習の主題	クリティカルケアにおける日常生活援助と早期リハビリテーション
		授業内容	1. 体位管理 2. 清潔援助 3. 栄養管理 4. 活動・睡眠への援助 5. 二次的合併症予防（深部静脈血栓症、褥瘡・皮膚トラブルなど） 6. ICU-AW と廃用症候群の予防
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	9 (小野)	学習の主題	急性腹症患者への看護
		授業内容	1. 急性腹症を起こす疾患 2. 診断と治療 3. 看護ケア
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	10 (小野)	学習の主題	二次性中枢神経系意識障害のある患者への看護
		授業内容	1. 主な原因となる疾患 2. 意識障害のアセスメント 3. 治療 4. 看護ケア
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	11 (村中)	学習の主題	外傷患者への看護
		授業内容	外傷患者の特徴と看護ケア
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	12 (村中)	学習の主題	移植医療、脳死と臓器移植
		授業内容	1. 臓器移植とは 2. 臓器移植の現状 3. 脳死 4. 脳死判定 5. 臓器移植における看護師の役割
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	13 （村中）	学習の主題	クリティカルケアにおける終末期医療１
		授業内容	1. クリティカルケアにおける終末期 2. 倫理問題への対応
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	14 （村中）	学習の主題	クリティカルケアにおける終末期医療２
		授業内容	1. 意思決定支援 2. 緩和ケア
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	15 （小野）	学習の主題	クリティカルケアと倫理的問題、チーム医療
		授業内容	1. 看護倫理の定義と原則 2. 多職種との協働 3. チーム医療の中の看護師の役割
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する

授業科目	慢性看護論 Chronic Care Nursing	担当教員	佐藤　郁恵、加藤　剛寿、渡辺　美和、長尾　麻由美
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	慢性疾患を持つ人々が病気をセルフマネジメントしていける力を身に付けられるように、看護者は患者一人ひとりの多様な価値観や生き方を理解し、具体的な知識・技術を提供するとともに、さまざまな役割を持った一人の生活者としてコントロール感覚を獲得できるようアプローチしていく必要がある。 本授業では、慢性の病気とともに生活している人の身体的・心理社会的・スピリチュアルなニーズを理解し、慢性の病気とともに自分らしい生活を送るための行動変容を促す看護について考える。 さらには、臨床現場の第一線で活躍する専門・認定看護師からの講義を通して、専門性の高い慢性期看護を発展的に広い視野で捉えることを目的とする。		
到達目標	1. 慢性期及び慢性期看護の特徴を概説できる。 2. 慢性の病気とともに生活している人の身体的・心理社会的・スピリチュアルなニーズを説明できる。 3. 慢性の病気とともに自分らしい生活を送るための行動変容を促す看護について考えることができる。 4. 慢性期看護の専門性について考えることができる。		
テキスト	鈴木久美、他編「成人看護学　慢性期看護 - 病気とともに生活する人を支える 第 3 版」（南江堂）		
参考書	1. 岡美智代 編「行動変容をうながす看護」（医学書院） 2. 東めぐみ「進化する慢性病看護」（看護の科学社） 3. 鈴木志津枝・藤田佐和 編「慢性期看護論　第 3 版」（ヌーヴェルヒロカワ） 4. 黒江ゆり子 他訳「慢性疾患の病みの軌跡―コービンとストラウスによる看護モデル」（医学書院） 5. 安酸史子 他「ナーシンググラフィカ　成人看護学②　セルフマネジメント」（メディカ出版） 6. 佐藤栄子 編「事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 第 2 版」（日総研） 7. 安酸史子「糖尿病患者のセルフマネジメント教育 エンパワメントと自己効力 改訂 2 版」（メディカ出版） 8. P・ディヤング 他「解決のための面接技法 第 3 版」「同 4 版」（金剛出版） 9. 河口てる子 編「慢性看護の患者教育」（メディカ出版）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標到達状況をレポート・提出物によって評価する。 佐藤 30%：課題レポートのテーマは講義時に説明します。 加藤 70%：プログラムの立案書 30%、発表スライド 30%、事例発表会 10% レポート・提出物の評価基準は、ルーブリックで提示します。
	レポート	30%	
	小テスト		
	提出物	70%	
	その他		

履修上の留意事項	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護③～⑥（第 4 回、第 5 回、第 8 回、第 13 回）では、それぞれ、看護師役、患者役となり、看護師役は自身の立案した行動変容を促す看護計画を患者役に実践してもらい、実際に 1～2 週間後と約 1 か月後に、生活習慣の変化が患者役にみられたかの評価までの一連の看護過程を展開していきます。欠席が生じると、看護師役、患者役がペアとなっていることから一連の展開を進めていくにあたり、支障を来すため、全出席できるよう体調管理を十分整えていきましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（佐藤）	学習の主題	ガイダンス、慢性期看護及び慢性の病気とともに生活している人の特徴
		授業内容	1. 慢性疾患の特徴と看護の役割 2. 慢性の病気とともに生活している人の特徴 3. 症状マネジメントのための統合的アプローチ
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
	2（加藤）	学習の主題	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護①
		授業内容	1.　行動変容を支援するプログラム：EASE（イーズ）プログラム 2.　行動変容を支援するプログラムで活用する技法
		事前・事後学習	事後学習：第 4 回で計画立案の際、活用できるよう講義内容を振り返る
	3（加藤）	学習の主題	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護②
		授業内容	1.　解決のための面接技法「ソリューション・フォーカストアプローチ」 2.　ソリューション・フォーカストアプローチの実践例
		事前・事後学習	事後学習：自身の生活習慣で変えたいと思っているが行動変容が難しいものを記載する（第 4 回で患者役時に使用するため）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 (加藤)	学習の主題	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護③
		授業内容	1.　患者役からの情報収集 2.　行動変容を支援するプログラムの立案
		事前・事後学習	事後学習：行動変容を支援するプログラムの立案
	5 (加藤)	学習の主題	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護④
		授業内容	1.　行動変容を支援するプログラムの実践
		事前・事後学習	事後学習：実践した際の患者役の言動の記録
	6 (佐藤)	学習の主題	慢性の病気とともに生活している人を理解する（1）
		授業内容	1. 病みの軌跡にもとづく看護のプロセス 2. 慢性の病気とともに生活する人の自己概念への影響
		事前・事後学習	事後学習：　テーマにそって課題をまとめる
	7 (佐藤)	学習の主題	慢性の病気とともに生活している人を理解する（2）
		授業内容	１．慢性の病気とともに生活している人の家族に与える影響 ２．慢性の病気とともに生活している人の社会的役割の変化
		事前・事後学習	事後学習：　課題レポートの提示、詳細は講義時に提示します。
	8 (加藤)	学習の主題	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑤
		授業内容	1.　行動変容を支援するプログラムの実践の中間評価 2.　初期計画の修正 3.　修正後の行動変容を支援するプログラムの実践
		事前・事後学習	事後学習：実践した際の患者役の言動の記録
	9、10 (長尾)	学習の主題	透析看護認定看護師の役割 透析看護認定看護師が行う慢性腎臓病を抱えて生活する人の看護
		授業内容	1. 透析看護認定看護師の役割 2. 透析看護認定看護師の慢性腎臓病の人への看護の実際 3. キャリア形成
		事前・事後学習	事後学習：リアクションペーパー
	11、12 (渡辺)	学習の主題	慢性疾患看護専門看護師の役割　慢性疾患看護専門看護師が行う糖尿病を抱えて生活する人の看護
		授業内容	1. 慢性疾患看護専門看護師の役割 2. 慢性疾患看護専門看護師の糖尿病の人への看護の実際 3. キャリア形成
		事前・事後学習	事後学習：リアクションペーパー
	13 (加藤)	学習の主題	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑥
		授業内容	1.　行動変容を支援するプログラムの実践の最終評価 2.　発表スライド作成（立案したプログラム全体のまとめ）
		事前・事後学習	事後学習：発表スライド、原稿作成
	14 (加藤)	学習の主題	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑦
		授業内容	1.　事例発表会
		事前・事後学習	事後学習：リアクションペーパー
	15 (加藤)	学習の主題	慢性疾患を抱える患者に対する行動変容を促す看護⑧
		授業内容	1.　事例発表会（第 14 回の続き）
		事前・事後学習	事後学習：リアクションペーパー

授業科目	終末期看護論 Terminal Care Nursing	担当教員	小島　悦子、伊藤　円、青田　美穂、 田中　ひとみ
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	生命を脅かす疾患に伴う問題に直面している患者・家族の身体的、心理社会的、スピリチュアルなニーズを理解し、患者・家族の QOL を最大限に保つための支援について考える。また、多職種チームアプローチにおける看護師の役割を理解する。		
到達目標	1. 緩和ケア、ホスピスケア、ターミナルケア、エンド・オブ・ライフ・ケアの用語を整理できる。 2. 質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアの実践に必要な要素を説明できる。 3. エンド・オブ・ライフにある患者・家族の身体的、心理社会的、スピリチュアルなニーズを説明できる。 4. エンド・オブ・ライフにある患者・家族のケアについて説明できる。		
テキスト	田村恵子編「終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」（メヂカルフレンド社）		
参考書	授業内に適宜紹介する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		第 1 回〜第 6 回の講義中・後に、授業で理解したこと、授業内容および事例への看護や臨地実習の学びに関連した意見・考え・感想を所定の用紙にまとめ、提出する。授業での学びや自分の考え等の具体的記述、授業態度を合わせて評価する（100%）。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100%	
	その他		

履修上の留意事項	生命を脅かす疾患に伴う問題に直面している患者・家族に対し、看護職として何ができるのかについて一緒に考えましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護について理解できるように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（伊藤）	学習の主題	ガイダンス エンド・オブ・ライフ・ケアについて
		授業内容	1. 緩和ケア、ホスピスケア、ターミナルケア、エンド・オブ・ライフケアとは 2. エンド・オブ・ライフ・ケアの特徴と看護師の役割 3. 自分のエンド・オブ・ライフについて
		事前・事後学習	事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述・提出する
	2（伊藤）	学習の主題	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的課題
		授業内容	1. エンド・オブ・ライフ・ケアで看護師が直面する倫理的課題 2. アドバンス・ケア・プランニング
		事前・事後学習	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述・提出する
	3（伊藤）	学習の主題	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける症状マネジメント
		授業内容	1. 終末期に起こる主な症状 2. 終末期における症状マネジメント 3. 症状緩和における多職種連携
		事前・事後学習	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。 事後学習：リアクションペーパー
	4（小島）	学習の主題	家族の悲嘆に対するケア
		授業内容	1. 喪失、悲嘆、死別とは 2. 家族の悲嘆のアセスメントと援助
		事前・事後学習	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述・提出する
	5（伊藤）	学習の主題	高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア
		授業内容	1. 高齢者を取り巻く社会状況と終末期を迎える場 2. 高齢者ケアにおける倫理 3. 高齢者の病いの特徴と尊厳を守る援助
		事前・事後学習	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述・提出する

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6 （小島）	学習の主題	臨終前後のケア
		授業内容	1. 臨終までのケア 2. エンゼルケア
		事前・事後学習	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく。 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述・提出する
	7 （青田）	学習の主題	エンド・オブ・ライフ・ケアの実際（1）
		授業内容	1. 臨死期のケアの実際 2. 看取り時のケアの実際
		事前・事後学習	事後学習：リアクションペーパー
	8 （田中）	学習の主題	エンド・オブ・ライフ・ケアの実際（2）
		授業内容	1. 在宅における緩和ケアと多職種連携の実際 2. 在宅における臨死期のケアの実際
		事前・事後学習	事後学習：リアクションペーパー

授業科目	国際看護論 International Nursing	担当教員	大野　夏代、鈴木　幹子
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	グローバリゼーションの概念やグローバリゼーションが健康に与える影響について学び、世界の健康問題、特に途上国を中心に世界の健康問題の現状と対策を理解し、各国の協調により問題を解決するための仕組みを学ぶ。また、社会文化を背景とする健康・疾病概念、及び保健行動の多様性を知り、看護の普遍性と多様性を理解し、より広い視野から看護の果たすべき役割を考察する。さらに、保健医療の国際協力における看護の役割、諸外国の社会経済や文化・教育に起因する健康課題と看護の現地における活動、災害等への国際支援活動に関する基礎知識から、看護活動を通じての国際共存の考え方を習得する。		
到達目標	1. グローバル・ナーシングの概念を理解する。 2. 看護における国際協力、国際交流の現状について理解する。 3. グローバル・ヘルスにおいて看護職である自分自身の果たす役割について考察する。		
テキスト	南裕子監修「国際看護学 - グローバル・ナーシングに向けての展開」（中山書店）		
参考書	近藤麻里「知って考えて実践する国際看護」（医学書院）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を提出物、授業参加（出席率）等により総合的に評価する。 1. 授業内レポートの提出状況、内容から目標 1〜3 の到達状況を評価する。 2. 提出物の提出状況、内容から目標 3 の到達状況を評価する。
	レポート	50%	
	小テスト		
	提出物	50%	
	その他		

履修上の留意事項	授業の順序は、若干変更する可能性があります
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（大野）	学習の主題	グローバル・ナーシングとは
		授業内容	1. 国際保健からグローバル・ヘルスへという概念を理解する。 2. グローバリゼーションが与える健康への影響を理解する。 3. 持続可能な開発目標（SDGs）とその取組を理解する。 テキスト第 1 章
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 1 章を読み、履修上の疑問点を明らかにする。
	2（大野）	学習の主題	社会制度や情報と看護
		授業内容	1. 開発途上国の以下の健康課題について理解する。 1）リプロダクティブヘルスに関する健康課題 2）貧困と健康格差　　テキスト第 3 章
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 3 章、第 4 章を読み、履修上の疑問点を明らかにする。
	3（大野）	学習の主題	異文化・多文化と看護を一緒に考える①
		授業内容	1. 在日外国人の保健医療 2. 在外日本人の保健医療 テキスト第 2 章
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 2 章を読み、履修上の疑問点を明らかにする。
	4（大野）	学習の主題	異文化・多文化と看護を一緒に考える②
		授業内容	1. 在日外国人が日本で経験する医療文化の違いを理解する。 2. 保健医療現場における外国人対応について考える（グループワーク含む）。
		事前・事後学習	事後学習：「食文化のタブー」について別途指示（授業内レポート A）

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 （大野）	学習の主題	異文化・多文化と看護を一緒に考える③
		授業内容	在日外国人のゲストスピーカーによる日本での患者体験
		事前・事後学習	事後学習：p182 課題②（授業内レポート B）
	6 （大野）	学習の主題	国際的看護の活動
		授業内容	1. 国際協力における看護の役割 2. 外国人看護師の研修の受け入れ テキスト第 6 章 3. 国際的看護活動の計画（テキスト付録にある課題⑧）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 6 章を読み、履修上の疑問点を明らかにする。
	7 （大野）	学習の主題	国際的な視野を持つ看護師になるというチャレンジ
		授業内容	1. 国際的看護活動で看護専門職に求められる能力について理解する。 テキスト第 7 章
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 7 章を読み、履修上の疑問点を明らかにする。
	8 （鈴木）	学習の主題	国際的看護の活動（海外における災害医療支援）
		授業内容	1. 国際協力における看護の役割 2. 国際的看護活動の実際
		事前・事後学習	事後学習：講義を受けての学びをレポートにして提出する。

授業科目	看護教育論 Nursing Education	担当教員	稲葉　佳江
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	看護専門職としての自律と発展は看護教育の発展と相補的に関わり合っている。本科目では、看護職の発展と教育がどのような社会的影響を受けながら今日に至ったのかを学び、これからの看護・看護教育を考える。我が国の学校教育制度と看護教育制度、その歴史的変遷・社会的課題を理解する。さらに、本学での教育を振り返り、自らの将来を展望し、キャリア・アップのためのさまざまなプログラムを理解と生涯学習の契機とする。		
到達目標	1. 教育の目的・機能について理解する。 2. 我が国の看護教育制度の変遷と特徴を理解する。 3. 看護教育課程の目的・概要と特徴を理解する。 4. 看護教育における臨地実習の意味を理解し、実習教育のあり方を考える。 5. 看護継続教育を理解し、自己のキャリア・アップ、生涯学習のあり方について考える。		
テキスト	なし		
参考書	1. 小山真理子編「看護教育とカリキュラム」（医学書院） 2. 杉森みどり、舟島なをみ編「看護教育学」（医学書院） 3. グレッグ美鈴、池西悦子「看護教育学」（南江堂）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		・レポート：授業内容を踏まえて、看護教育に関する自分なりの考えを記述しているか等を評価する。 ・その他：授業中の意見交換、グループ学習時の討議への参加状況により評価する。 評価の基準・方法の詳細は開講時のガイダンスで行う。
	レポート	90%	
	小テスト		
	提出物		
	その他	10%	

履修上の留意事項	講義日程については不定期になる可能性があるので、事前に十分留意する。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	教育の目的・機能
		授業内容	1.「人間と教育」についてグループ討議 2. 討議内容の発表 人間の特性と教育の機能について、討議し、その成果を発表する。
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく。 討議と発表をもとに、「自己の考える人間の特性と教育機能」について所定用紙にまとめる。
	2	学習の主題	我が国の学校教育制度と看護教育制度①
		授業内容	1. 日本国憲法と教育基本法・学校教育法 2. 学校教育制度下の看護教育制度
		事前・事後学習	事後学習：授業の学び、感想・疑問点を所定用紙に記載する。
	3	学習の主題	我が国の学校教育制度と看護教育制度②
		授業内容	1. 保健師助産師看護師法（保助看法）と看護教育制度 2. 各種看護教育課程とその目的、社会的機能
		事前・事後学習	事後学習：授業の学び、感想・疑問点を所定用紙に記載する。
	4	学習の主題	我が国の学校教育制度と看護教育制度③
		授業内容	1. 看護教育課程の法的根拠 ・保助看法と指定規則の関係 ・指定規則の変遷と現行規定 2. 現代の看護教育の動き ・社会の動向と看護教育の大学化 ・看護教育から看護学教育への転換
		事前・事後学習	事後学習：大学で看護学を学ぶ意義について、自己の考えを所定用紙にまとめる。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5	学習の主題	看護教育の歴史と課題①
		授業内容	1. 戦前の社会的特徴と看護職 2. 戦前の看護職と看護教育
		事前・事後学習	事後学習：授業の学び、感想・疑問点を所定用紙に記載する。
	6	学習の主題	看護教育の歴史と課題②
		授業内容	1. 戦後の社会的特徴と看護職 2. 戦後の看護職と看護教育 3. 看護学教育への発展と課題
		事前・事後学習	事後学習：授業の学び、感想・疑問点を所定用紙に記載する。
	7	学習の主題	臨床指導者に役立つ実習指導
		授業内容	1. 看護教育における臨地実習の目的・意義 2. 臨地実習での学習と評価のポイント 3. 臨地実習における臨床指導者の役割
		事前・事後学習	事後学習：看護教育における臨地実習の意義、臨床指導に関する自分なりの見解を所定の用紙にまとめる。
	8	学習の主題	キャリア・アップのための生涯学習と看護継続教育
		授業内容	1. 生涯学習、継続教育とは 2. 看護継続教育の種類と現行体制について理解し、自己の生涯学習のあり方を考える。
		事前・事後学習	事後学習：生涯学習に臨む自らの計画を立案し、所定の用紙にまとめる。

<table>
<tr><td>授業科目</td><td>在宅看護実習
Home Care Nursing：Practicum</td><td>担当教員</td><td>針金　佳代子、石村　珠美、他</td></tr>
<tr><td>対象学科・
年次・学期</td><td>看護学科・4 年次・前期</td><td>選択・必修</td><td>必修</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>実習</td><td>単位数</td><td>2 単位</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="3">在宅における実際の看護活動を通して、疾病や障がいを持ちながら療養している人々とその家族の健康状態や生活状況を理解する。そして、本人や家族の思いや望みを実現できるよう生活を支える看護の実践に必要となる基礎的能力を養う。在宅看護の一手段である訪問看護を通して在宅看護を理解し、看護師の役割を理解する。</td></tr>
<tr><td>実習目標</td><td colspan="3">1. 在宅療養者の健康状態、生活状況を、ICF の概念を参考に、身体、心理、環境・生活、家族・介護状況の側面をアセスメントできる
2. 在宅療養者が抱える療養上の課題を理解することができる
3. 在宅療養者の思いや望む生活を可能にするため看護計画を根拠に基づき考えることができる
4. 在宅療養者のニーズに応じた支援方法を理解できる
5. 在宅療養者・家族を支援する地域包括ケアシステムについて理解できる</td></tr>
<tr><td>実習内容</td><td colspan="3">具体的な内容については実習要項を用いて、実習オリエンテーションで説明する</td></tr>
<tr><td rowspan="6">評価方法・
基準</td><td>評価方法</td><td>評価割合（%）</td><td>評価基準</td></tr>
<tr><td>試験</td><td rowspan="5">100%</td><td rowspan="5">・実習時間の 3 分の 2 以上の出席が評価対象となる
・実習評価表に基づき、目標到達度を評価する</td></tr>
<tr><td>レポート</td></tr>
<tr><td>小テスト</td></tr>
<tr><td>提出物</td></tr>
<tr><td>その他</td></tr>
<tr><td>履修上の
留意事項</td><td colspan="3">事前学習を行い、実習に臨んでください。
実習オリエンテーションには必ず出席してください。
看護の対象者は地域で療養しながら生活している人々です。本人と家族がどの様な思いを持ちながら生活されているのかに関心を持ち、その生活を支える看護の役割をしっかり考えてください。実習で受けた説明や体験したことの意味を考えながら学びを深めてください。</td></tr>
<tr><td>実務経験を
活かした教育内容</td><td colspan="3">実務経験者の立場から、疾病や障がいをもって生活している対象者と家族に対する在宅看護について理解しやすいように実習指導を行います。</td></tr>
<tr><td>実習方法</td><td colspan="3">グループ（学生 2〜3 名）毎に、いずれかの訪問看護ステーションで以下の方法に従って実習を行う
1. 実習体制
1）実習は実習施設 1 週間、学内実習 1 週間の計 2 週間で行う
2. 実習内容
1）受け持ち事例について：実習中に 1 事例を受け持ち、看護過程を展開する
・可能な限り、2 回以上の訪問看護を実施する
2）受け持ち事例以外の方への訪問看護や訪問リハビリへの同行、デイケア等への参加し、学びを深める
3）他機関・他職種観の連携活動を学ぶ機会として、可能な限り「サービス調整会議」「退院予定者の退院支援」等への参加する
4）行動調整および学生カンファレンス
・実習は、毎日訪問看護ステーション内で実習指導者と行動調整を行い、実習に臨む
・実習終了時には 1 日の振り返りをする。1 週目の最後にはカンファレンスを行う
5）学内実習は、指定された課題に沿って学習する</td></tr>
<tr><td>実習施設</td><td colspan="3">医療法人東札幌病院訪問看護ステーション東札幌、医療法人東札幌病院訪問看護ステーションみずほ
医療法人社団豊生会東苗穂訪問看護ステーション、社会医療法人康和会訪問看護ステーションしらかば、
愛全会訪問看護ステーションみなみ、愛全会訪問看護ステーションまこまない、
愛全会訪問看護ステーションとよひら・ちゅうおう、
医療法人徳洲会札幌ひがし徳洲会訪問看護ステーション、
社会医療法人恵和会訪問看護ステーション水源池すずらん、株式会社はる日訪問看護ステーション晴日
医療法人札幌山の上病院札幌山の上リハ訪問看護ステーション、
勤医協きくすい訪問看護ステーション、勤医協つきさむ訪問看護ステーション
勤医協札幌ひがし訪問看護ステーションしのろサブステーション
SOMP ケア株式会社 SOMPO ケア札幌発寒訪問看護、SOMPO ケア株式会社 SOMPO ケア札幌澄川訪問看護
温っとほーむ株式会社訪問看護リハビリテーション温っとほむ
株式会社スマイル訪問看護ステーションピンポンハート、社会福祉法人渓仁会訪問看護ステーションあおば</td></tr>
</table>

授業科目	看護総合実習 Integrative Nursing：Practicum	担当教員	木津　由美子、他
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2 単位
ねらい	看護実践能力を培うことをねらいとして、4 年間の学習の集大成として既習の学習内容や体験を統合し、複数患者を対象とした看護活動を行うとともに今後の自己課題を明確にすることである。このねらいを達成するために、看護チームの一員として、複数の患者・家族への看護を実践するなかで、看護の優先度ならびに必要性を判断し、今後の基盤となる看護実践能力を身につける。また、保健医療福祉チームが患者・家族を中心にどのように連携・協働しているのかの実際を学ぶ。		
実習目標	1．対象理解に必要な情報を意図的に収集する。 2．患者ー看護師間のケアの概念に基き、援助的人間関係を形成する。 3．看護チームの一員として看護実践のなかで生じる多様な状況を判断し実践する。 4．患者の状況に応じて安全に看護を実践する。 5．保健医療福祉チームにおける看護職者の果たす役割、機能についての実際を理解する。 6．実習の全プロセスを通して責任ある態度で実習する。 7．看護職としての今後の自己課題を明確にする。		
実習内容	具体的な内容については、実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	実習評価基準、出席状況、態度に基づき、目標の到達状況を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	実習のオリエンテーションは必ず参加すること。その上で、病棟の特性に合わせた事前学習を必ず行っておく。また、これまでの学習内容（講義・実習等）を復習し、複数の対象者を受け持ってタイムリーに看護実践ができるよう準備を整えておく。
実務経験を活かした教育内容	
実習方法	1. 複数患者を受け持ち、看護チームスタッフ / 実習指導者とともに看護を実践する。 2. 看護チームスタッフ / 実習指導者とともに、複数患者のケアの優先度を考え、一日の行動計画を立案・実施する。 3. 必要時、病棟カンファレンスに参加（見学）する。 4. 学生同士で情報を共有したり、協働し看護を実践する。 5. 週 1 回、教員および施設の実習指導者の参加のもとでケースカンファレンスを行う。 ※詳細は実習要項を参照のこと。
実習施設	札幌東徳洲会病院、クラーク病院、札幌北楡病院、柏葉脳神経外科病院、東札幌病院、札幌徳洲会病院、イムス札幌消化器中央総合病院、札幌医科大学附属病院、イムス札幌内科リハビリテーション病院、北光記念病院、札幌麻生脳神経外科病院、札幌しらかば台病院、札幌禎心会病院、北海道大野記念病院

授業科目	実践総合演習 Comprehensive Seminar in Nursing Practice	担当教員	木津　由美子、他　全看護教員
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業目的	本科目では、看護実践に関する既習の知識・技術・態度を統合し、課題を解決するための創造的思考力、看護実践力を養うことを目的とする。さらに、この学習を通して、看護実践能力における自己課題を明確にし、自己成長に必要な対策を自ら立案する能力を養う。		
到達目標	1．看護技術の習得状況を確認し、具体的な行動レベルで準備、実施することができる。 2．対象者の状況に合わせて、根拠に基づき看護技術を選択し、実施することができる。 3．上記の学習過程を通じて自己の課題を整理し、改善・向上のための対策を立てることができる。		
テキスト	なし		
参考書	これまでの専門基礎科目・専門科目で使用したテキスト・参考書 ※その他、学習内容に合わせ、 随時紹介する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の達成状況を提出物により総合的に評価する。 ①看護技術チェックリスト（40%） ②日常生活の援助計画（30%） ③自己課題レポート（30%）
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100%	
	その他		

履修上の留意事項	これまでの知識・技術・態度を振り返り、看護職者としての人間力を養うために、主体的に行動・学習してください。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（木津）	学習の主題	1. ガイダンス 2. 看護技術の総復習①
		授業内容	1. 本科目の目的・目標・授業内容、評価方法、履修上の留意事項の確認、参考文献類の紹介 2. 看護技術の手順書の作成①
		事前・事後学習	事前学習：事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。 事後学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。
	2（木津）	学習の主題	看護技術の総復習②
		授業内容	看護技術の手順書の作成②
		事前・事後学習	事前学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する。
	3（全担当教員）	学習の主題	看護技術の総復習③
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	事前学習：これまで学習してきた看護技術について復習し、自己学習して演習に臨む。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する。
	4（全担当教員）	学習の主題	看護技術の総復習④
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	事前学習：これまで学習してきた看護技術について復習し、自己学習して演習に臨む。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 （全担当教員）	学習の主題	看護技術の総復習⑤
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	事前学習：これまで学習してきた看護技術について復習し、自己学習して演習に臨む。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する。
	6 （全担当教員）	学習の主題	看護技術の総復習⑥
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	事前学習：これまで学習してきた看護技術について復習し、自己学習して演習に臨む。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する。
	7 （木津）	学習の主題	看護技術の総復習⑦
		授業内容	看護技術の手順書の作成③
		事前・事後学習	事前学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
	8 （全担当教員）	学習の主題	看護技術の総復習⑧
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	事前学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
	9 （全担当教員）	学習の主題	看護技術の総復習⑨
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	事前学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
	10 （全担当教員）	学習の主題	看護技術の総復習⑩
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	事前学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
	11 （全担当教員）	学習の主題	看護技術の総復習⑪
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	事前学習：手順書作成のために必要な看護技術を復習する。 事後学習：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
	12 （木津）	学習の主題	対象者に合わせた日常生活援助の実践①
		授業内容	対象者（紙上事例）に合わせた清潔・衣生活の援助計画の具体的方法の検討・立案、準備
		事前・事後学習	事前学習：事例に合わせた援助計画に必要な看護技術を復習する。 事後学習：事例に合わせた援助の手順書を作成する。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	13 （全担当教員）	学習の主題	対象者に合わせた日常生活援助の実践②
		授業内容	対象者（紙上事例）に合わせた清潔・衣生活の援助計画の援助の実施、評価
		事前・事後学習	事前学習：事例に合わせた援助計画に必要な看護技術を復習し、演習に臨む。 事後学習：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
	14 （全担当教員）	学習の主題	対象者に合わせた日常生活援助の実践②
		授業内容	対象者（紙上事例）に合わせた清潔・衣生活の援助計画の援助の実施、評価
		事前・事後学習	事前学習：事例に合わせた援助計画に必要な看護技術を復習し、演習に臨む。 事後学習：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する。
	15 （木津）	学習の主題	看護技術の総復習、対象者に合わせた日常生活援助のまとめ
		授業内容	１．看護技術、対象者に合わせた日常生活援助の自己課題の明確化 ２．自己課題を改善・向上するための対策の整理 ３．レポート作成
		事前・事後学習	事前・事後学習：看護技術の自己の課題と改善・向上のための対策をレポートにまとめる。

授業科目	公衆衛生看護活動論Ⅲ Public Health Nursing Ⅲ	担当教員	小川　克子、安藤　陽子、近藤　明代
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	地域で生活する人々の環境と健康水準及び健康課題に即した公衆衛生看護活動展開の方法を理解する。		
到達目標	1. 地域で生活する人々の健康水準の把握に必要なデータを特定し、収集する方法が理解できる。 2. 地域で生活する人々の健康と生活実態をアセスメントし、健康課題を抽出することができる。 3. 個別の健康課題を構造化し、地域保健対策を考えることができる。		
テキスト	1. 佐伯和子編著「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド（第 2 版）」（医歯薬出版）		
参考書	1. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2021/2022」（厚生労働統計協会） 2. 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる 2020-2021」（メディックメディア）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		・グループで作成した地域アセスメントレポート内容について、到達目標の観点から評価する。その他、グループ作業の取り組み姿勢、発表やディスカッションにおける参加度をもとに評価する。 ・レポートが未提出の場合は評価の対象としません。
	レポート	80%	
	小テスト		
	提出物		
	その他	20%	

履修上の留意事項	・事前、事後学習を確実に行い、演習に臨むこと。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問はその都度担当教員に質問する。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師としての経験から地域の健康課題の捉え方、対策の立案方法について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（小川）	学習の主題	コミュニティを対象とした看護過程（1）
		授業内容	本科目の目的、目標、学習内容の概要と履修上の留意点、評価方法について説明する 1. 人々の健康と生活のアセスメントと健康課題の特定から構造化まで 2. 健康課題の種類、表現の原則、健康課題の構造化 3. 人々の健康と生活のアセスメントと健康課題の優先順位
		事前・事後学習	保健師の活動計画、地域保健情報年報から地域の状況を把握し、授業に臨むこと。また、授業終了後は授業で使用したプリントや自分で準備した文献を整理し、全体を構造化/体系化して捉えることができる様にする
	2（小川）（安藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（1）（サブシステムアセスメント①）
		授業内容	アセスメント項目を定めてサブシステムをアセスメントする
		事前・事後学習	事前学習：演習（1）に向けて、各データが示す内容について復習し、各自データ収集を行う
	3（小川）（安藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（2）（サブシステムアセスメント②）
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、サブシステムのアセスメントレポートを作成する
		事前・事後学習	事後学習：サブシステムアセスメントの再確認・修正を行う
	4（小川）（安藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（3）（健康水準アセスメント①）
		授業内容	アセスメント項目を定めて人々の健康水準をアセスメントする
		事前・事後学習	事前学習：演習（3）に向けて、各データが示す内容について復習し、各自データ収集を行う
	5（小川）（安藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（4）（健康水準アセスメント②）
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、健康水準のアセスメントレポートを作成する
		事前・事後学習	事後学習：健康水準のアセスメントの再確認、修正を行う
	6（小川）（安藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（5）（健康課題の抽出）
		授業内容	グループメンバーのアセスメントから、健康課題を抽出する
		事前・事後学習	事後学習：アセスメントレポートを完成させる。発表とディスカッションの準備を行う

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7 （小川） （安藤） （近藤）	学習の主題	コミュニティ看護アセスメント演習（6）（発表とディスカッション）
		授業内容	サブシステムと人々の健康水準のアセスメント、抽出した健康課題を発表し、ディスカッションを行う
		事前・事後学習	事後学習：ディスカッションでの学びを整理し、アセスメントを修正する
	8 （小川）	学習の主題	コミュニティを対象とする看護過程（2）
		授業内容	健康課題解決の方法（対策立案と評価方法）
		事前・事後学習	コミュニティ看護アセスメント演習発表から課題意識をもって授業に臨むこと。また、授業終了後は授業で使用したプリントや自分で準備した文献を整理し、全体を構造化・体系化して捉えることができる様にする

授業科目	公衆衛生看護実習Ⅰ Public Health Nursing：Practicum Ⅰ	担当教員	近藤　明代、安藤　陽子、小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	実習	単位数	2 単位
ねらい	地域社会で生活している人々を、その地域の生活環境・社会環境と関連づけながら理解し、その人々が抱える健康問題・課題を組織的に予防・改善する公衆衛生看護のあり方を理解する。また、公衆衛生看護を展開するために必要な方法・技術の基本を習得する。		
実習目標	1. 地域社会で生活する個人・家族を公衆衛生看護の対象としてとらえ、家庭訪問の看護過程を通して個人・家族への支援方法・技術を理解できる。 2. 共通の健康課題をもつ人々の集団を公衆衛生看護の対象としてとらえ、健康教育の看護過程を通して集団への支援方法・技術を理解できる。 3. 地域社会で生活する人々および地域社会の健康課題解決のために展開される公衆衛生看護活動は、ハイリスク・アプローチやポピュレーション・アプローチ等様々な理論や方法・技術を組み合わせて展開されることを理解できる。 4. 住民の健康と生活を護る公衆衛生看護の役割を理解できる。		
実習内容			

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	目標到達度を実習の評価基準において評価します。 ＊実習要項を参照
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・事前に提示された学修内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるよう努めること。 ・実習地では実習指導者をはじめとする関係者及び住民との交流を大切にし、地域の人々の生活の理解に努める。
実務経験を活かした教育内容	
実習方法	1. 保健師の同行のもと家庭訪問を行う。 2. 集団を対象にして、健康教育の企画・実践・評価の一連のプロセスを体験する。 3. 実習地域（施設）で行われる保健活動に参加し、保健師の支援方法について理解する。 4. 関係機関、関係職種との会議等に参加し、他職種との連携・調整の実際を体験する。 5. 実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。
実習施設	倶知安保健所、岩内保健所、帯広保健所および 3 保健所管内の町村

<table>
<tr><td>授業科目</td><td>公衆衛生看護実習 II
Public Health Nursing：Practicum II</td><td>担当教員</td><td>近藤　明代、安藤　陽子、小川　克子</td></tr>
<tr><td>対象学科・
年次・学期</td><td>看護学科・4 年次・後期</td><td>選択・必修</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td>実習</td><td>単位数</td><td>2 単位</td></tr>
<tr><td>ねらい</td><td colspan="3">地域社会で生活している人々を、その地域の生活環境・社会環境と関連づけながら理解し、その人々が抱える健康問題・課題を組織的に予防・改善する公衆衛生看護のあり方を理解する。また、公衆衛生看護を展開するために必要な方法・技術の基本を習得する。</td></tr>
<tr><td>実習目標</td><td colspan="3">1. 地域社会で生活する人々および地域社会を公衆衛生看護の対象として理解し、地域で生活する人々および地域社会の健康課題を明らかにすることができる。
2. 地域社会で生活する人々および地域社会の健康課題を解決するための計画や対策が理解できる。
3. 地域社会で生活する人々に対する公衆衛生看護活動は、保健・医療・福祉など様々な分野の人々との連携と協働および様々な制度や公的・私的資源を活用し、住民主体の展開が重視されていることを理解できる。
4. 健康危機管理における、組織的な管理体制やシステム構築の必要性について理解できる。
5. 住民の健康と生活を護る公衆衛生看護の役割を理解できる。</td></tr>
<tr><td>実習内容</td><td colspan="3">具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">評価方法・
基準</td><td>評価方法</td><td>評価割合（%）</td><td>評価基準</td></tr>
<tr><td>試験</td><td rowspan="5">100%</td><td rowspan="5">目標到達度を実習の評価基準において評価します。
＊実習要項を参照</td></tr>
<tr><td>レポート</td></tr>
<tr><td>小テスト</td></tr>
<tr><td>提出物</td></tr>
<tr><td>その他</td></tr>
<tr><td>履修上の
留意事項</td><td colspan="3">・事前に提示された学習内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるよう努めること。
・実習地では実習指導者をはじめとする関係者および住民との交流を大切にし、地域の人々の生活の理解に努める。</td></tr>
<tr><td>実務経験を
活かした教育内容</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>実習方法</td><td colspan="3">1. 実習地域のアセスメントを行い、地域の課題を抽出し、実際に取り組まれている健康課題との整合性、解決するための計画や対策を検討する。
2. 実習地域の環境を査定しながら、地域にあった保健活動の方法について検討する。
3. 地域における健康危機管理施策・体制がどのように整備され、予防策が講じられているかを知り、予防活動と保健師の役割について考える。
4. 地域ケアシステムの果たす役割と地域における保健師のコーディネート機能について考える。
5. 公衆衛生看護活動の評価の意義、評価の視点、方法などについて検討する。
6. 実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。</td></tr>
<tr><td>実習施設</td><td colspan="3">倶知安保健所、帯広保健所、岩内保健所および 3 保健所管内の町村</td></tr>
</table>

授業科目	公衆衛生看護実習Ⅲ Public Health Nursing：Practicum Ⅲ	担当教員	近藤　明代、安藤　陽子、小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	実習	単位数	1 単位
ねらい	産業保健分野における労働者の健康の保持・増進活動がどのような組織体系の中で行われているかを理解し、産業保健における保健師の役割を理解する。		
実習目標	1. 労働者集団における健康課題の特徴を理解できる。 2. 労働者の健康の保持・増進活動が、どのように組織体系の中で行われているかを理解する。 3. 産業医、衛生管理者等との連携、協働の必要性を理解できる。 4. 事業場に所属する保健師の役割を理解できる。 5. 外部労働衛生機関における保健師の役割を理解できる。		
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	目標到達度を実習の評価基準において評価し、60 点以上を合格とする。 ＊実習要項を参照
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・事前に提示された学習内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるように努めること。 ・実習施設では実習指導者をはじめとする関係者および働く人々との交流を大切にし、産業に従事する人々の理解に努める。
実務経験を活かした教育内容	
実習方法	1. 産業保健分野における健康支援活動の実際を見学する。 2. 健康相談、生活習慣予防検診、健康測定、医療機関との連携、健康教室、健康診断・個人情報の管理など実習施設で実際の場面があれば見学する。参加できなかった内容については、学習課題として取り組み、主体的に指導者の説明を受ける。 3. 健康診査の事後措置、事業者・衛生管理者への指導など労働保健管理協会の活動をまとめる。 4. 実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。
実習施設	北海道労働保健管理協会